

アフロ・ブラジル文化の表現

Afro-Brazilian Cultural Expressions

パウラ・バヘット

バイーア連邦大学社会学部准教授／カポエイラ・アンゴラ グループインジンガ・共同設立者

今回このような講演の機会を与えていただいたことに、感謝の意を示したいと思います。また、東京と京都で実施しているこの企画の準備に携ってくださったみなさんに感謝します。

詳細な内容に入る前に、ここにはさまざまな分野の方が参加されていると思いますので、まずは「アフロ・ブラジル文化」というものがどのようなものかについて、簡単に説明するところから始めます。

アフロ・ブラジル文化をどう定義するか

アフロ・ブラジル文化がどのようなものか一言で言うのは難しいことです。ここではアフロ・ブラジル文化がブラジルにどれだけ深く根付いているのかについて、お話ししたいと思います。

ブラジルにおけるアフロ・ブラジル文化、黒人文化は、ブラジル全体の人びととすでに混ざり合っていて、切り離せるものではありません。そのことを納得していただくために、みなさんがブラジル特有だと思っているものがいかにアフリカと関係あるのかを、まずはお話しします。

その第一の例が言語です。ブラジルではポルトガル語が話されていますが、そのポルトガル語もブラジルでは特有の、ポルトガルとは違う、アフリカ文化の影響を受けたポルトガル語を話しています。

二つ目の例はサッカーです。ブラジルというとサッカーだとよく言われますが、ブラジルのサッカーのプレーの仕方にも、アフロ・ブラジル文化の影響が見られます。アフロ・ブラジリアンは完全にブラジル全体と混ざり合っていて、不可分のものとなっているのです。

だからといって、アフロ・ブラジルのことを話さなくていいかということ、そうではありません。アフロ・ブラジル文化がどのように生まれてきたのか、どのように「アフロ・ブラジルの烙印」が黒人に捺されて、どの

ように文化のなかに統合されていったのかについて、私たちは目を向けないといけません。

「ブラジルとはなにか」を考えたときに、混血であるメスティソの人びとや黒人は、その議論から除外されてきた、社会から除外されてきた歴史があります。それは白人層、支配者層がどのようにブラジルを表象したいか、ブラジルに対してどのようなイメージを持ってもらいたいかということと、深く関係しています。

ディアスポラと奴隷貿易のことについては、ご存じの方も多いと思います(資料1-1)。ブラジルはもっとも黒人を多く受け入れた国で、現在でももっとも黒人が多い国です。アフリカ系の人びとが、ブラジルのほとんどすべての面で労働を担っていたと言えます。

多様な要素の統合としての「アフロ・ブラジル」

これからアフロ・ブラジル文化の表現についてお見せします。まずは19世紀についてです。そのあと少しだけ20世紀についてお話しします。

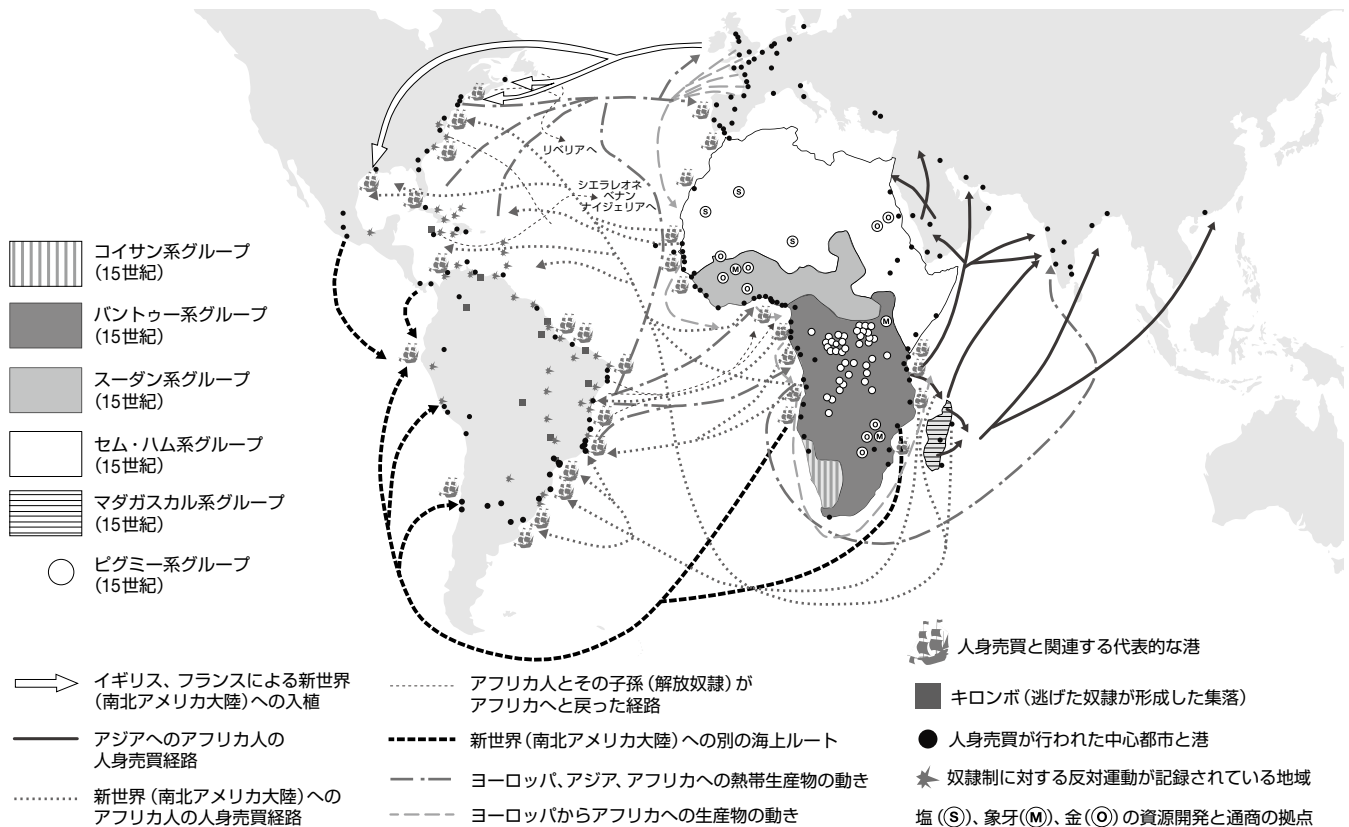
アレイジャジーニョという名前でも知られている、アントニオ・フランシスコ・リスボアという黒人のアーティストとして知られている方がいます。彼は奴隷の息子でした。ブラジルのミナスジェライス州の教会で、彼の作品が数多く見られます(資料1-2)。

アフリカ起源のブラジルの宗教にカンドンブレというものがありますが、その古いかたちの表象がカルンドゥー(CALUNDU)です(資料1-3)。絵を見るとわかるように、ブラジルの主たる宗教のキリスト教とはかなりはずれた、黒人特有の、奴隷たちがもってきた宗教と表象も、ブラジルにはたくさん残っています。

とくにブラジルの北東部、バイーア州には、アフリカ人や奴隷たちの文化的表象がたくさん残っています。それは19世紀の前半にとくに発展しました。

バイーア州の州都であるサルヴァドールには、奴隷制度が終わる直前に奴隷が大量に集中的にやってき





資料1-1 アフリカ、アメリカ、ブラジルにおけるディアスポラの地政学 (15世紀～19世紀)

Rafael Sanzio Araujo dos Santosらによる図を元に作成

(●原図制作……Cartographic project organized by the Geographer Rafael Sanzio Araujo dos Santos. AfroBrazilian geography project at the Applied Cartography and Geographic Information Center of the University of Brasilia (CIGA-UNB). Cartographic drawings elaborated by Rafael Farias, Rodrigo Vilela and Washington Oliveira, Brasilia-DF. Email: cartografia@unb.br ●原図制作の参考文献……Anjos, R.S.A. Coleção África-Brasil: Cartografia para o Ensino-Aprendizagem, Brasília, 2007/ Anjos, R.S.A. A Utilização dos Recursos Cartográficos conduzida para uma África Desmesticada, Brasília, 1985/ Silva, D.B.D. Parceiros no Tráfico, Rio de Janeiro, 2011/ Beckles, H.M. & Shepherd, V. Trading Serils/ Thomas, H. The Slave trade, USA, 2007/ Harris, J.E. Global dimension of the African Diaspora, USA, 1982/ Fage, J.D. An Atlas of African History, Londres, 1958/ Anville, Carte de l'Ethiopie Occidentale, Paris, 1732/ Le Monde Diplomatique - Supplement Historique, Paris, 2007/ NGM, The grand exchange, Washington, 1992/ Grosselein-Delamanché, Atlas de Géographie - Nouvelle Edition, Paris 1907



資料1-2 アレイジャジーニョの作品



資料1-3 カルンドゥーの絵

ました。そこでは今日でも彼らが残した文化的表象が多く見られます。

ここからは、19世紀のあいだにアフリカ人とその子孫たちによって作られた、さまざまな芸術、文化表象をお見せします。彼らは団結して、文化を通してさまざまな抑圧に抵抗する方法を見出していきました。なかでも労働と宗教は、彼らにとってたいへん重要な

ものでした。

アフリカから奴隷として連れてこられた人びとは、アフリカのさまざまな地域からやってきました。そのなかでもナゴー (Nagô) とよばれるグループが、いまだに有名です。

私たちが「アフロ・ブラジル」と言うときには、それはすでに総合的な表現になっています。たとえば「ナ





資料1-4 カトリックのブラザーフッドによって行なわれていた祭りのようす

Carlos Julião. Garments of the begging slave women at the "Festa do Rosário". Watercolored drawing. National Library Foundation. In: Mostra do Redescobrimento: Black in body and soul. Aguilar, Nelson (Org.). São Paulo: 2000. 560 p.

ゴー]や「アンゴラ」など、いろいろなところからいろいろな部族が集まってきたのを総称して「アフロ・ブラジル」と呼んでいることは、念頭に置いておかななくてははいけません。

また、アフロ・ブラジル文化を考えるうえで特筆しておきたいのが、ブラザーフッドという友愛の団体とイスラム教徒のグループ、そしてカンドンブレです。この三つについて憶えておかないといけないことがあります。

ブラザーフッドとムスリム・グループ、カンドンブレ

まず、アフリカ人によるキリスト教のカトリック団体のブラザーフッドについてお話しします。かなり多くのカトリックのキリスト教のブラザーフッドが、黒人によって19世紀に作られました。

資料1-4はブラザーフッドによって行なわれていた祭りの絵です。これらのブラザーフッドは、基本的に民族ごとに組まれていました。こうした団体は、彼らが団結するのにたいせつなものでした。こうした場は、黒人の子どもたちが教育を受ける場、読み書きを学ぶ場にもなっていました。資料1-5に挙げたのは、男性だけのブラザーフッドの名前です。このように男性のブラザーフッドは、すでに18世紀から萌芽的に形成されていたことがみてとれます。

資料1-6はノサ・セニョーラ・ダ・ボア・モルチ(Nossa Senhora da Boa Morte)という友愛の団体に所属する女性たちの写真です。この団体の儀式に来るために、世界中の方がたがかなり多く集まっているそうです。

資料1-5 男性ブラザーフッドの名前

Our Lord of Martyrdom (in the city of Cachoeira): since 1765

Our Lady of Rosario (in the city of Salvador)

Our Good Lord of Necessities and Redemption: since 1752



資料1-6 ノサ・セニョーラ・ダ・ボア・モルチの女性

Adenor Gondim. The Ladies of the Good Death Series. 1990's. Colored Photograph. Private Collection. In: Mostra do Redescobrimento: Black in body and soul. Aguilar, Nelson (Org.). São Paulo: 2000. 560 p.



資料1-7 イスラム教徒の黒人奴隷が隠し持っていた小冊子

Booklet with Islamic writings found tied to the neck of a Muslim Negro dead during a Malês insurrection, Bahia, 1835. In: Mostra do Redescobrimento: Black in body and soul. Aguilar, Nelson (Org.). São Paulo: 2000. 560 p

この時期にイスラム教徒のグループがあったことにも触れておきたいと思います(資料1-7)。イスラム教徒のグループは、奴隷のなかでも抵抗するグループに関連づけられていました。

こうした団体のなかで、今日でも一番活動しているといえるのは、カンドンブレだと思います(資料1-8)。カンドンブレは、もともとアフリカにあった宗教が奴隷とともにブラジルに到来して、独自の発展を遂げたものです。そのカンドンブレの一部として、カポエイラがあります(資料1-9)。



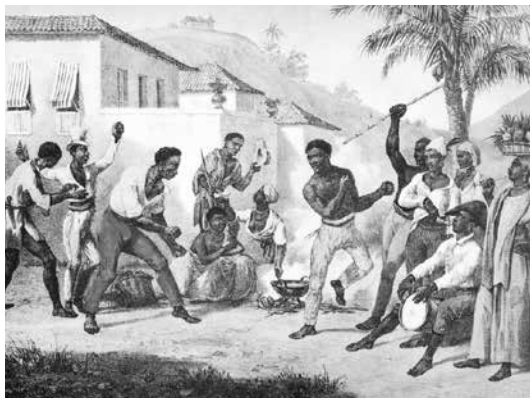
資料1-8 現代に残るカンドンプレの儀式

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%B3%E3%83%96%E3%83%AC#/media/File:Orixa_Yemanja_Orossi.JPG



資料1-11 フレーヴォ

<http://carnaval.olinda.pe.gov.br/historia/homenagem-ao-frevo/dobradica-tesoura-os-passos-basicos-do-frevo>



資料1-9 かつてのカポエイラの様子

<https://en.wikipedia.org/wiki/Capoeira>



資料1-12 イレ・アイエの女性たち

<http://blackwomenofbrazil.co/2013/12/17/ile-aye-bahias-oldest-bloco-afro-celebrates-40-years-opens-registrations-for-2014-ebony-goddess-contest/>



資料1-10 マラカトゥ

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Caboclos_de_Ilan%C3%A7a.jpg

20世紀以降、現代に残るアフロ・ブラジル文化

アフロ・ブラジル文化は、20世紀以降もたいへん豊かに残っています。20世紀に入ると、アフロ・ブラジル文化のなかで、より社会的・政治的な活動も増え、黒人による演劇集団などが誕生しました。

その他、たくさんの豊かなアフロ・ブラジルの文化

表現が、今日も残っています。それらの多くがカーニバルに内包され、現在でもその文化表現が行われています。資料1-10は、ブラジル北東部のペルナンブーコでよく見られるマラカトゥ (Maracatu) という民族芸能をするカーニバルのようすです。

資料1-11は、ペルナンブーコ州のシンボルとなっているフレーヴォ (FREVO) というカーニバルでの踊りのようすです。この踊りで見られる動きは、カポエイラともかなり大きく関係しています。

資料1-12は、イレ・アイエ (Ilê Aiyê) というアフロ・ブラジルのグループです。このグループは、1970年代に、ブラジルの黒人の文化が再評価されていった、すなわち、黒人たちによって価値が再獲得されていったときから始まっています。

資料1-13は、カンドンプレの女性の聖職者たちとよく関連づけられる、バイーアの伝統的な服装をした女性たちです。こうしたバイーアの女性たちの姿は、すでにバイーアのイメージ、シンボルとして、世界中



資料1-13 バイアーナ(バイアの女性)

<https://alemdastendencias.wordpress.com/tag/traje-tipico-das-baianas/>

に流布しています。

バイアの文化のなかでもとくに重要なものとして食文化があります。彼女たちは食文化にも深く関わっていますが、今回は残念ながらお話しする時間がありません。

解放の原動力となる アフロ・ブラジル文化のポテンシャル

これまで見てきたアフロ・ブラジルの文化はすべて、身体に関連するものです。ノブレガという研究者は、「哲学者のメルロ＝ポンティは、身体性が欠如した思考を優先しすぎるあまりに、私たちが感覚を体験する身体の実現を置き去りにしてきてしまったことを私たちに教えてくれている」と指摘しています。このような指摘に対して、現在の観点あるいは理解から、身体に関する知識を、救い出すこともできると考えています。なかでもアフロ・ブラジルの文化表現の実践は、カポエイラも含めて解放の原動力となる大きなポテンシャルがあります。この「身体の道」を辿って、アフロ・ブラジルの伝統的な世界観や主体性が伝承されてきましたし、今日もカポエイラなどを通して、後世に伝え続けられています。

エッセイ

カポエイラの女性マスターたち、初来日

石井 結 FICA-Japão 練習生

✕ ストラ・ジャンジャとパウリーニャの存在は私に勇気を与えてくれる。カポエイラではいろんな出会いがあるが、今の自分を形成してきた人たちの数はそれほど多くないと思う。彼女たちは心の慈母たちだ。遠く離れていても、グループの違いがあっても、彼女たちがカポエイラの世界に「いる」という安心感はとても大きく、力にもなります。グループを越えてお互いの経験を感じ合い、助け合い、成長し、共に進んでいくことが女性たちには出来るのだと、気づかされました。彼女たちが切り開いてくれた道をただ、なんとなく歩むのではなく意識することで、これからもその道は保たれていくと、私は思います。GINGA NZINGAのイベントの中でメストラ・ジャンジャ、パウリーニャ、メストレ・ポロッカがカポエイラを通して伝えてくれたことをこれからも大切にしていきたいと思います。先生たちが蒔いてくれたカポエイラの種が、これから日本の大地の上で成長していくのが楽しみです。

